

2019年世界女子ペタンク選手権大会 報告書

世界女子選手権に臨んで

監督；井上まち子

◆**出発**は11月17日（日）10：50分成田空港、カンボジアに向けて期待と不安を抱え選手4人と合流した。選手は全員体調が万全とは言えず、個々の忙しさを精一杯調整しての参加に選手達の多少の疲れが垣間見えた。また、前回の結果（ベスト8）があるだけに、プレッシャーを胸に、それでも頑張る気持ちを奮い立たせ、会話と笑顔で、心を整えていた。17日は午後4時頃にホテルに到着、会場まで近いので軽くジュニアのメンバーと一緒に練習を行い、テランの状態をみた。早めに終わり明日からの試合に望むために、何よりも選手の体を休めることにした。

◆**会場**は、さすがに圧倒され、羨ましさを感じた。屋根付のテランとそれを取り囲む三段の観戦ベンチ、メインコートには空調設備のある1面だけの特設コート、国からの支援が相当大きいと感じた。（理由としてはカンボジアが派遣する多くの国際大会で金メダルを取れる種目の第一候補がペタンクということだと話を聞いた。）そして、今回特別に趣向されていたのが、地元の小学生から高校まで位の学校に招待席をつくって観戦させたり、地元の一般住民に有料で観戦チケットを販売し沢山の応援を呼び込んだりしており、会場を盛り上げていた。メインコートはカンボジアとし、タイ・フランスなど力のあるチームの対戦を選択し、披露していた。



◆**試合**、日本は試合の立ち上がり苦しむパターンが多かった。決め手は選手3人の個々の一投目である。1投目が成功すれば流れをつかめるが、その1投目の成功率が低く、2投目で何とか立て直すという苦しい場面が多かった。そのため最後まで地面への自信が付かず投球に迷いが出てしまった。下記のようにデータで表われている。

- 1 試合目【チュニジア】 P=木下、M=郷間、T=堅田 合計7メーヌ；4対13で負

総合力（有効投球確率）日本 P = (48%) T = (33%)

チュニジア P = (56%) T = (59%)

- 2 試合目【ポーランド】 P=石上、M=堅田、T=郷間 合計：**9メーヌ；9対8で勝**

総合力（有効投球確率）日本 P = (44%) T = (53%)

ポーランド P = (52%) T = (46%)

- 3 試合目【スイス】 P=木下、M=堅田、T=郷間 合計9メーヌ；7対8で負

総合力（有効投球確率）日本 P = (52%) T = (42%)

スイス P = (46%) T = (67%)

- 4 試合目【スロバキア】 P=石上、M=郷間、T=堅田 合計7メーヌ；3対13で負

総合力（有効投球確率）日本 P = (38%) T = (60%)

スロバキア P = (46%) T = (72%)

- 5 試合目【アメリカ】 P=木下、M=石上、T=郷間 合計**7メーヌ；13対3で勝**

総合力（有効投球確率）日本 P = (69%) T = (50%)

アメリカ P = (32%) T = (16%)

◆日本チームとして個々に課題を持ち練習に励んでいたものの、なかなか結果には繋がらなかった。しかし反面、各国の選手の練習を積み上げた自信は凄いものを感じた。そして、カンボジアとフランスの対戦は息をのむ素晴らしいものだった。勝つか負けるかの瀬戸際を常に経験しているベテランの精神力は半端ではない。言葉では表現するには足りないものがある。1投1投の攻防戦には会場にいる観客も息を潜めた観戦だった。そして上

手くいったプレーは涙を浮かばせるほどの感動を与えていた。心が熱くなる試合とはそういうものだと思われた。

日本チームの試合はネーションズで1回戦負けでしたが、参加した選手の心には残るものが大きかったと思う。今後の自分との向き合い方や仲間との連携に大きな変化をもたらすと期待する。日本女子チームとしては年々試合内容が良くなっている。後一步をどう皆で解決できるか考えていかなければならない。練習しかないかな？遠征試合が必要？などさまざまな考えを熟慮して進みたいと考える。そして何よりも、多面にわたり多くの支えがあって私たちが世界に夢を抱ける。そうしたことに心から感謝を持ってしっかり歩んで行きたいとかがえます。

BEST8 をもう一度…悔しい思い

郷間 亜由美 (キャプテン)



オープニングセレモニーの後 Jr.のシューティングからスタート

会場のテランは1番下の層がコンクリート、土砂にまばらに散りばめられた砂利。カチンコチンで硬い。シューティングの為に作ったセッティングだった。1m ゴムチューブの円、円の中はコンクリートを露出させ上に薄い砂。

◆女子のシューティング競技に入った時は夕方まで会場の照明が丁度あたり、砂が白ので、光が反射し見づらい…と、いうかほぼ見えない。各国選手は苦戦してポイントがのびなかった。コート No.3、2人目、日本チームからは郷間をまち子コーチはチョイス。コーチは付き添い、メンバーが見守る中スタートした。

1m サークルのチューブはかなり浮き出していて、ヒットしても外に出ない…。何ということか…。当ててはいるもののチューブに泣かされる。外に出なかったり、チューブが影響して連動し1ポイントばかり。アトリエ4が終わって気づけばまだ10ポイントだった。最後9m ビュットを飛ばし15ポイントで終了した。予選通過ラインは18ポイントだった。あと1つヒットし3ポイントが取れていたなら予選通過出来ていたと思うと悔やまれる。

試合 (トリプレットへ…)

2年前のあの素晴らしいドラマをもう一度。希望に満ち溢れ私達は戦いました。結果は残念でなりません。スタメンオーダーはプレイヤーと相談の上、まち子コーチが出す。皆どのポジションでも出来るので、私を基本に置き、3人のローテーションです。調子の良いプレイヤーがあと2人入る形でした。

テランはポワンテが難しい。どのコートも状況が違います。ポルテ、ドウミ、ルーレットを上手く使い分けなければならない。正確なドネの選定、ライン取り。ティールは正確な決定力が求められ、ティールしてカロも念頭において作戦を練ってきます。

日本も含め各国ロングに苦戦していました。ショート勝負にするのも良いですが、そこはゲーム内での駆け引きです。テランに合う投球を見極め、瞬時に適応する事が大切なのですが、ミスもあり、中々思う結果にならなかった。1次選考会・2次選考会の難しい代表チームに勝ち残り、チームをまとめ本番はもっと出来たはず、悔しくてたまりません。

最後に…メンバー、コーチ、そして仲間達、日頃応援して下さった方々に感謝し、これから日々の練習内容を考え精進して行きたいと思います。

2019 ペタンク女子世界選手権

木下 あけみ



予選2勝3敗、ネイションズ一回戦負け 悔しい結果でした。

試合会場は屋根付きで、良い環境の中で試合が出来ました。

私は砂利のテランに苦戦し、ティールの確率も悪くチームの足を引っ張ってしまいました。

今後の課題として、ポワンテの安定、ティールの確率を上げる、大事な場面でも自信を持って投球できる精神力が必要だと思いました。

今回のフランス対カンボジアの試合を見て感動。是非日本でも国際大会を開催して欲しいと思いました。生でトップレベルの試合を見れば刺激を受ける事間違いなしです。又ペタンクをもっと知ってもらう機会にもなると思います。

これからの日本の課題は、世界との差を縮める事だと思います。その為には、それぞれの選手の普段の練習の積み重ねが必要であり、又国際大会にも出来るだけ多く参加することも大切だと思います。自分達より高いレベルの国と試合をする事で、自分達のレベルを知ることが出来るし、プレッシャーの中で失投しないメンタル面も養われると思います。そして砂利のテランにももっと慣れる事も必要だと思います。

個人の技能を向上させる為に基礎練習、戦術、メンタルのトレーニングが必要だと思うので、強化合宿をもっと増やしていただけるように希望します。

最後に今回サポートして下さった皆様ありがとうございました。

更なる挑戦に向けて

石上 祥子



目標の1つであった世界選手権2大会連続出場。大変光栄なことであり、今大会も私のペタンク人生を大きく変える大会となった。この2年間はあっという間だった。前回の中国大会での課題である、①様々な投球方法を身に付け、どんなテランにも対応できるようになること、②ダイレクトティールを確立すること、③場面場面における緻密な戦略を立てること、に向けて日々努力した2年間だった。これら課題を胸にカンボジアでの世界選手権に挑んだ。

カンボジアのテランは、予想以上に難しいものだった。岩肌が見えている所、細かい砂利の所、斑に大きな石が置かれている所、全てがミックスされたようなテランだった。私はチームメイトと何度も投げ方やボールの落下点を確認し、試合に臨んだ。2年前と比べると、はるかにポワンテの投球はよくなり、チームに貢献できる場面が増えたように感じた。しかし、連続して成功球が投げられない不安定さがあり、何よりもポルテが苦手。日本の大会ではあまり用いることのないポルテだが、国際大会では必要不可欠。今後の課題の一つが見つかった。

また、この2年間、練習に時間を注いだダイレクトティール。いろんな選手のティールを観察・研究し、フォームの改良を重ねた。自分に合ったフォームが見つからず、投げ出しそうになったことが何度もあった。その度に、監督から言われた「ポワントゥールがティールをしなければならぬ場面が必ず来る！」という言葉が力となり、あきらめず練習に取り組んだ。そして、今大会において、まさにその瞬間がやって来て、1点を死守することができた。たった1点が何百倍も嬉しい結果に繋がり、私の2年間で報われたような気がした。

思い描いた結果は得られなかったが、それだけ世界の壁は高く、険しい道のりであるということ。今までと同じ練習方法では、世界の強豪チームに勝てないということがはつき

りと分かった。個人としては、ポルテを習得すること、連続した成功球が投げられるようになること、精神面をもっと鍛え、苦しい場面を乗り越えられる選手になること。更なる挑戦が続く。また、改めて感じたことは、ペタンクはチーム競技であり、チームワークが何よりも大切だということ。実際、強豪国は長期間をかけてチームづくりを行い、大会に臨む。強いチームをつくるためにはチームでの練習量を増やし、できるだけ多くの試合経験を積む必要があると思う。今後そのような機会が持てることを、一強化選手として切実に願っている。

最後に、井上まち子監督をはじめチームメイトのみんな、最後まで共にプレーできたことを誇りに思います。ありがとうございました。そして、温かい声援をくださった日本ペタンク・ボール連盟の皆様、所属クラブの仲間、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

世界女子選手権大会

堅田 琴美



カンボジアで行われた世界女子ペタンク選手権に出場しました。私は今回が、ジュニアを卒業し、シニアに上がったからの初めての国際大会でした。

結果としては、予選 5 試合中 2 勝のネイションズカップ 1 回戦負けと悔いの残る結果でした。試合をする中での私のこれからの課題は、まず緊張を無くす事だと感じました。試合中、何度も緊張しすぎて思い通りのプレーが出来ない事がありました。この改善策は、「慣れ」もだけどやはり 1 番は自信を付ける事だと思います。自分に自信が付くというのは=練習量なので誰にも負けない練習量が必要だと感じました。それこそ女子で優勝したタイの強さは練習量だと思います。安定したフォーム、安定した球の軌道、この「安定」全てが長い時間をかけて努力して作られてきた物だと見ていて感じられました。私も誰から見ても「安定」してるなと思って貰えるようなプレーが出来る選手になりたいと思いました。

国際大会に出場して外国の人と戦ったり、ハイレベルな試合を目の前で見れるというのは滅多にない機会なので色んな事を吸収でき、自分のモチベーションアップにも繋がりました。また、代表選手に選ばれるよう、これからも頑張ります。そして、選ばれた時には今回より良い成績を残したいです。